

ISFJ論文審査システムについて

2011年度 改訂版

ISFJ論文審査システム

1次審査について

内容: 提出された全ての最終論文を審査にかけます。審査員一人につき、論文数本を ISFJ 論文評価項目(下記に掲載)に従って審査して頂きます。また同時に、総括として400字程度の総評を頂きます。そこで 1 次審査を通過した上位数本の論文に関して、2次審査にかけます。(1次審査に関しては特別な会議などは実施致しません。)

期間: 11月20日～12月2日の 18:00 までとなっております。

2次審査について

内容: 1次審査を通過した上位数本の論文を特別顧問委員会の先生方に審査して頂きます。また、政策フォーラム当日の論文審査会議において、選出された論文に関して議論して頂き、最優秀論文の選出、優秀論文の承認をして頂きます。尚、会議までに各特別顧問委員の方々には1次審査通過論文すべてを読んで頂きます。

期間: 12月4日から 12月17日の論文審査会議までとなっております。

論文審査会議について

内容: フォーラム当日に実施する会議で、特別顧問委員会の先生方に出席頂きます。議論する内容は以下を予定しております。

- ・優秀賞の承認
- ・最優秀賞の選定
- ・今後の論審システムについて

表彰論文について

<表彰体系>

- ・最優秀論文賞(1本)

2度の審査の結果、最も優秀だと認定された論文を最優秀論文賞とします。

- ・政策提言賞 (1本)

決勝進出チーム(上位5チーム)による決勝プレゼンテーションにおいて、参加者・特別ゲスト・一般観覧者の総勢約 800 名の投票により選出されます。「政策をアピールする力」に特に重点を置いた特別賞となります。位置づけは、最優秀賞に次ぐものとします。

※仮に最優秀賞受賞チームと政策提言賞受賞チームが重複した場合、ダブル受賞となります。

※決勝進出チーム5チームは、投票権を持ちません。

・優秀論文賞(4本)

1次審査通過論文のうち、2次審査で優秀と認定された論文4本に与えます。(但し、最優秀論文は除く。)

・分科会賞(26本)

1次審査の結果と、12月17日の予選プレゼンテーションにおける各教室のゲストの方の審査により、分科会賞を決定します。

<賞金等>

最優秀論文賞・・・トロフィー、賞状、賞金5万

政策提言賞・・・賞状、賞金3万

優秀論文賞・・・賞状、賞金1万

分科会賞・・・賞状

ISFJ 論文評価システム

参考論文制度

審査委員による得点のばらつきを防ぐために2本、参考となる論文をISFJ運営から提示致します。参考論文AはISFJ2010において最優優秀賞に、参考論文BはISFJ2008～2010において分科会優秀賞に選出された論文です。審査委員の方々には、これら2つの参考論文にしたがって審査をして頂きます。それぞれ参考論文よりも良いか、悪いかという評価方法をとらせていただきます。

<2011年度 参考論文>

参考論文A・・・2010年度最優秀論文

神戸大学 石黒馨研究会

「日本・フィリピンEPAの改善 —1万人のフィリピン人介護福祉士受入れ政策—」

参考論文B・・・2008～2010年度各分科会優秀論文

評価方法

ランク	得点	説明
SS	7	参考論文Aよりも優れている。
S	6	参考論文Aと同程度
A	5	参考論文Bよりも優れ、参考論文Aより劣っている。
B	4	参考論文Bと同程度
C	3	参考論文Bにやや劣っている
D	2	参考論文Bよりも劣っている
E	1	学部生のレベルとしても低い

次頁の評価項目(下記に記載)ごとに、上記のSS～Eの7段階の評価を行います。そしてそれぞれを点数化し、合計します。1論文を2名の論文審査委員が査読するので、2名が出した点数の総計をその論文の得点と致します。

例)

A審査委員・・・合計14点

B審査委員・・・合計10点

⇒その論文の得点・・・24点(AとBの総計)

論文評価項目

※ISFJのWEBページでも公開中

学術論文としての形式	A)論理構成	論文の構成が、問題提起(事実確認)⇒解釈・評価⇒提言の段階をきちんと踏めている。
	B)資料の取り扱い	データ・図表、資料の出所がしっかりと明記されている。
問題意識、現状分析	A)問題意識の明確さ	明確な問題意識を持ち、政策提言まで一貫した論理を展開している。
	B)現状分析	所定の問題提起・事実確認がデータ分析、事例などの根拠に基づいている。
分析	A)先行研究との連続性及び独自性	政策課題の分析・評価が先行研究をしっかりとフォローした上で、独自の分析・解釈をしている。またはアンケート調査等による独自の手法を用いてデータを作成している。
	B)分析結果	分析結果が客観的な説得力を有している。
政策提言	A)分析結果と提言の整合性	分析結果が政策提言に上手く組み込まれており、かつ提言内容のメリット・デメリットを論理整合的に説明している。
	B)政策提言の新規性	提言内容が過去の提言とは異なり、学生ならではの視点で柔軟かつ鮮明である提言を打ち出している。
	C)政策提言の実現可能性	執行上の技術的な実行可能性が高いものである。(政治的な実行可能性ではありません)

以下、審査報告書の見本となります。

論文表題: _____

査読者名: _____

評価項目		得点
(下記の項目に対して、 <input type="checkbox"/> にS~Eの評価の中で該当するものをご記入ください)		
《 学術論文としての形成 》	1) 論文構成 _____
	2) 資料の取り扱い _____
《 問題意識、現状分析 》	1) 問題意識の明確さ _____
	2) 現状分析 _____
《 分析 》	1) 先行研究との連続性及び 独自性 _____
	2) 分析結果 _____
《 政策提言 》	1) 分析結果と提言の整合性 _____
	2) 政策提言の新規性 _____
	3) 政策提言の実現可能性 _____

【審査コメント】 字数制限はございませんので、良い点、また改善点等を自由にお書き下さい。